



特 別 賞



ニコン 本社 / イノベーションセンター

株式会社三菱地所設計
松榮宏幸・朱豊・大谷育夢

ニコンゆかりの地である西大井に本社機能やR&D部門を集約し、先進開発機能の強化やシナジー創出を図り、持続的成長の実現を意図したプロジェクト。3,000人を超える社員だけでなく、ニコンファン、地域住民、取引先など、多様な人々がニコンを知り、様々な発見と交流を生み、イノベーションを興し、創造を育むワークプレイスとしている。

本プロジェクトで緑豊かなワークプレイスが創造される前までは、カメラ生産ラインのある工場の一部で、緑やオープンスペースに乏しい、生産性を優先した環境であった。また、工場南側に流れていた立会川も昭和40年代に暗渠化され、水面

作品概要

作品名——ニコン 本社/イノベーションセンター
所在地——東京都品川区西大井1-5-20
発注——株式会社ニコン
設計——株式会社三菱地所設計
設計協力——株式会社oriori
監理——株式会社三菱地所設計
施工——株式会社安藤・間
設計期間——コンペ 2019年7月～11月
設計 2020年1月～2022年3月
施工期間——2022年9月～2024年5月
規模——敷地面積: 18,063.61㎡、建築面積: 11,369.96㎡
主要施設——事務所

作品評

本作品は、ニコン創業初期の地において関東各地に分散していた研究機能を統合したイノベーションセンターの計画である。閉鎖的な工場跡地を、社員のみならず地域住民にも開かれた空間へと再構築し、「水・緑・光」を主題として環境意識の向上に寄与する点が注目される。また、生物多様性国家戦略やTNFDに配慮した取り組みは、企業施設における環境共生型デザインの一事例として評価される。しかしながら、掲げられたコンセプトである「暗渠化された水の記憶と光学通りの緑の連続性」が具体的にどのように設計的手法として表現されているのか、応募資料からは十分に読み取れない点が指摘された。また、掲載写真から植栽へのこだわりが確認できるにもかかわらず、植栽計画に関する説明が欠落しており、環境配慮の実践を裏付ける資料が不足している。資料のビジュアル性は高いが、図面等を通じて設計上の検討過程を提示していれば、より高い評価に繋がったと考えられる。



街とつながる地上階では地域と社員と生き物が出合えるよう、木陰のベンチや巣箱、バードバスを設置。建築テラスでは社員同士のコミュニティを育む多様な環境を様々なファニチャーを用いて創出した。

の姿を潜めている。

そこで、本プロジェクトでは様々な交流やイノベーションを育むワークプレイスを目指すと共に、ニコンの技術の根源である光をモチーフに、人々を取り巻く自然の光をデザインに取り入れ、「光に出会い。光が繋ぐ。」をランドスケープのコンセプトに掲げた。

現在と過去の周辺環境から計画地全体を「水と緑の結節点」と位置づけ、また、建築配置により生まれた空間の場所性を紐解き6つにゾーニングし、様々なシーン、ワークプレイスを創出した。屋上テラスも近接する執務空間との関係性を意識しつつ、多様なワークプレイスやコミュニティ、空間利用ができる

よう、様々な空間スケールと居場所が点在するデザインとした。

緑化計画においては、在来種を主体とした構成とし、工場跡地からのネイチャーポジティブを目指し、緑で敷地と建築物を被い、多様な生き物の拠り所になる設えを施した。例えば実や花のなる樹木を通り沿いや屋上に配置、雨水の保持による高湿潤な環境の創出、バードバスや巣箱の設置など、生き物を身近に感じるワークプレイスとすることで、人と自然の交流を育み、人の Wellbeing と多様な生態系への貢献を試みた。

今後、この地に多くの人や生き物が集い、相互に輝きを放つ街となることを願っている。